

第5学年 道徳科

主題名 友達だから（高B 友情、信頼）

教材名 幸せコアラ（出典：文部科学省「小学校道徳読み物資料集」）

（掲載 web http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/03/29/1303863_21.pdf）

本時のねらい

友達とのメールのやり取りの中で主人公が感じた葛藤やその結果に対する思いについて話し合うことを通して、友情は、互いを認め合い、相手の思いを大切にすることで育まれる信頼関係により成り立つことを理解し、友達と互いに信頼し、友情を深めていこうとする態度を育てる。

指導のポイント

- ・指導に当たっては、まず、「卒業しても、仲良しでいようね」と言い合うぐらいの親友であったことを理解させておく。
- ・中心発問は、夏希が自らの行為に後悔し改めて考えたことについてであるが、夏希からチェーンメールを送られた恵里の気持ちを考えておくことで、恵里に対する謝罪だけでなく、友情を育む上での信頼関係の大切さについて十分考えさせたい。

事前、事後指導の工夫

事前指導の工夫	○社会科の「我が国の産業と情報との関わり」の学習で、情報のネットワーク化によるコンビニエンスストアの変化から、情報ネットワークの特徴を考える。
事後指導の工夫	○特別活動（学級活動）の内容ウ「心身とともに健康で安全な生活態度」で「私たちの道徳」（P184～P187）を活用し、適切な情報機器の扱い方について話し合う。

展開例

	児童の学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	1、友達に関するアンケート結果について話し合う。	○アンケート結果について、どんなことを考えましたか。 ・やはり友達は、大切な存在だな。 ・友達がいるから、毎日楽しい。	・友達に関するアンケート結果について自由に話し合い、本時のねらいへの導入とする。
展開	2、教材「幸せコアラ」を読んで話し合う。	○「ぜんぜん気にしなかったな。」と瑞葉から言われた夏希は、どのようなことを思ったか。 ・本当に、瑞葉は気にしていないのかな。 ・わたしは、気になるけどな。 ・なぜ、わたしに送ったんだろう。 ○携帯電話を何度も開けたり、閉じたりしながら、夏希はどのようなことを考えていたのか。 ・早く送らないと、もっと悪いことが起こってしまう。 ・送ってしまうと、恵里に嫌われるかもしれない。 ・親友である恵里ならば、わたしの気持ちを分かってくれるはずだ。	・メールの文面に感心しながらも、最後の一文への違和感をもち、主人公がメールを送らなかったことを押さえ、瑞葉にメールを送った真意を尋ねる夏希の思いに共感させる。 ・親友である恵里に送信したことを押さえ、送信するかしないかで葛藤する夏希の考えや、なぜ送り先に恵里を選んだのかについて話し合い、夏希の友達に対する身勝手な考え方に気付かせる。

	<p>3、自分を振り返る。</p>	<p>◎（なのにわたしは…）と涙をこぼし心をつぶやく夏希は、何を考えていたのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恵里に謝りたい。 ・自分がされたら嫌なことを友達にしてはダメだ。 ・自分のことしか考えていなかった。 ・恵里の気持ちをもっと考えるべきだった。 <p>○友達だからこそ大切なことは、何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いを支え合え合う気持ち。 ・何でも言い合える関係。 ・信頼し合える関係。 ・何よりも友達を大切に思う気持ち。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏希からメールを送られた恵里が、どのような気持ちで数日間夏希たちと過ごし、メモを渡したのかについて触れることで、夏希の恵里に対する配慮のなさを捉える。 ・「ずっと仲良しでいようね。」（なのにわたしは…）を黒板に提示し、自分勝手な思い込みから恵里との間にあった関係を壊してしまった夏希が気付いたことを考えられるようにする。 ・「友達だからこそ」大切にしたいことをテーマに、自分たちの友達関係や自分自身の課題についても振り返られるようにする。
<p>終末</p>	<p>4、指導者の話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の体験を話し、友情の尊さに気付かせ、互いに励まし合い高め合う友情を育てていこうとする意欲を高めるようにする。

板書例

